

武正公一事務所
第22期インターン生共同研究

～就職難の打破～

新井 堯久 金子 彩
清水 勇登 西澤 英恵

I. テーマ

～きっかけ～

「就職活動」は自分たちにとって身近な問題であるため、実情を把握したかったため。

↓しかも

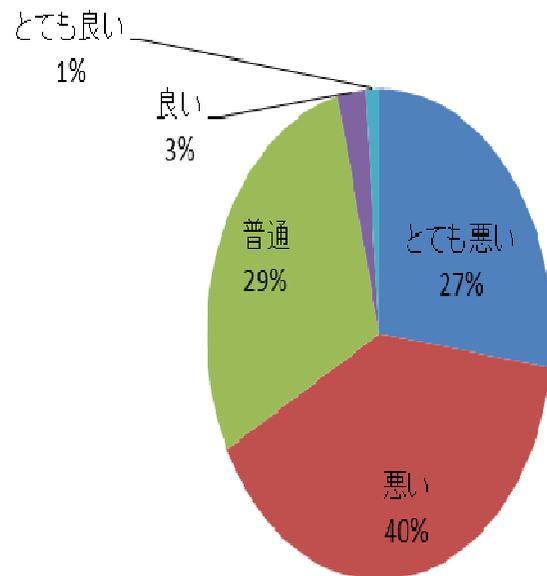
- 今の世の中は「就職氷河期」と称され、非常に景気が悪い
- 失業率＝4.9% (2010年12月現在)
- 内定率＝68.8% (2010年12月現在)



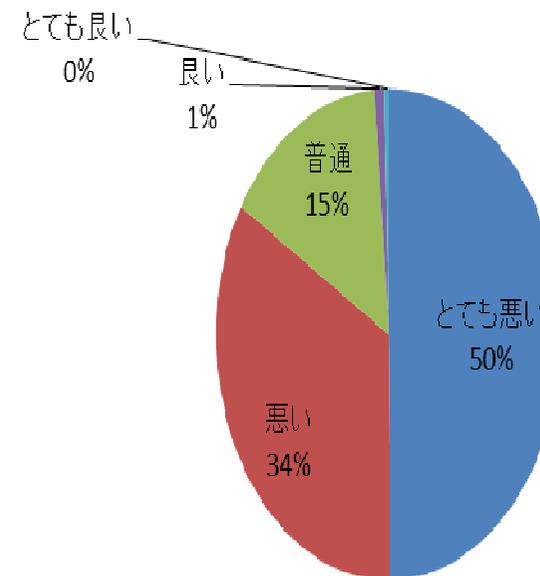
I. テーマ

- 現在の景気に対する世間の認識

失業率4.9%に対する印象

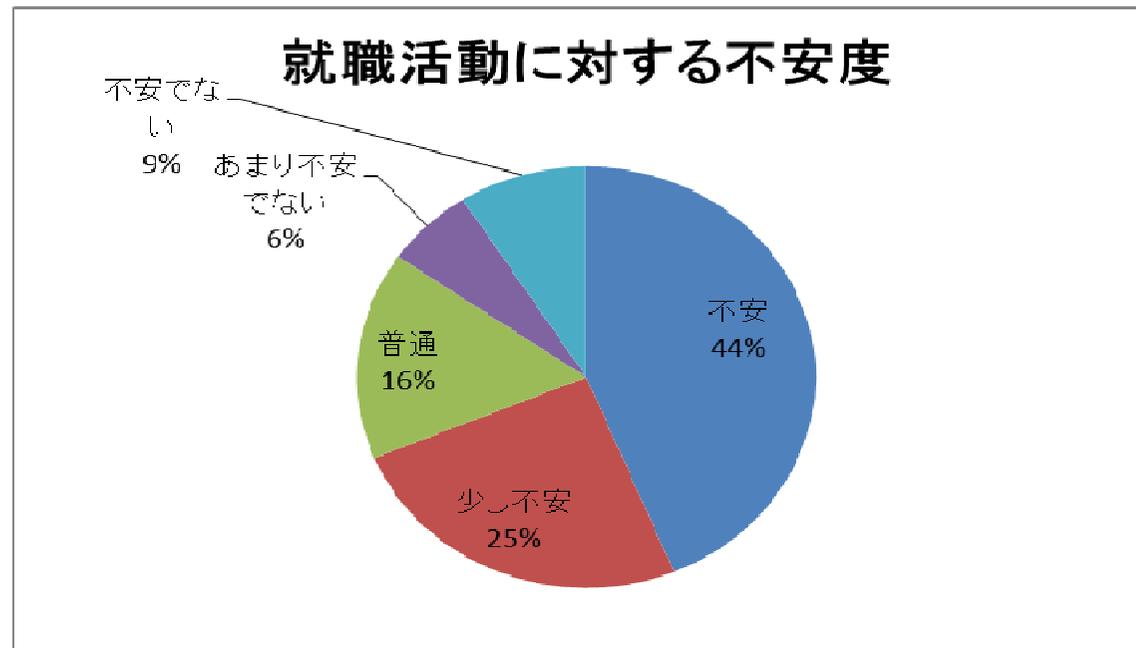


内定率68.8%に対する印象



I. テーマ

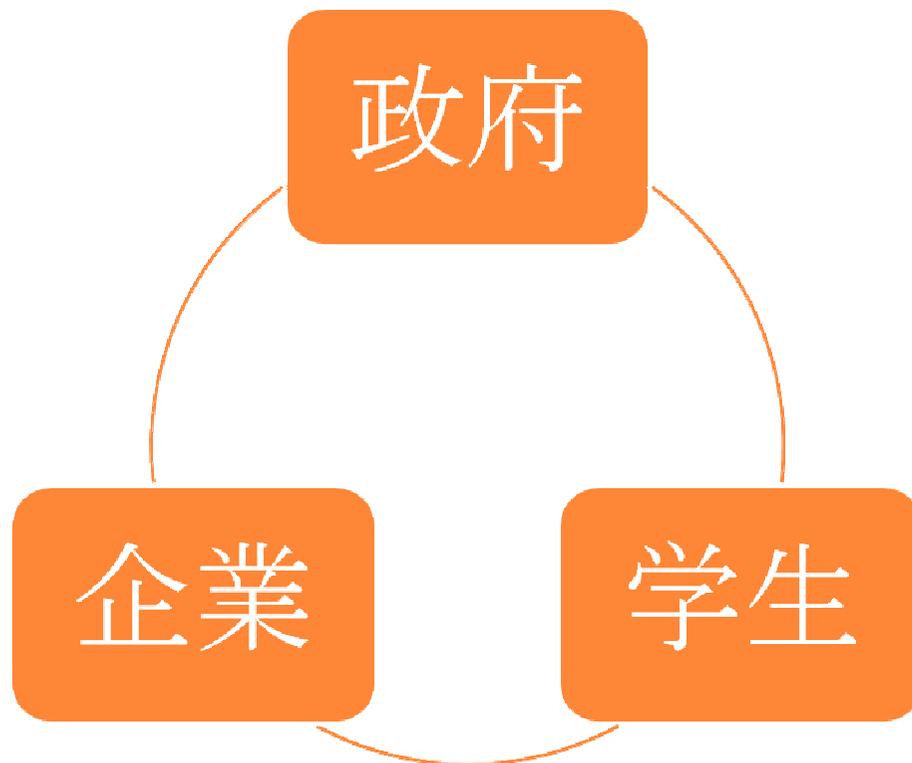
- 学生の7割が自分の就職活動に不安を抱いている



この《就職難》を如何にして
乗り越えていくことが出来るか



Ⅱ.分析法



これらが抱える問題を

- アンケート
- フィールドワーク
- 電話での質疑

で得た情報を基に
考える。



Ⅲ.解決策

～政府～

i.ハローワークについて

-感想-

『すごく充実していた！』

⇒×仕事を探すための場所

- 面接練習セミナー
- 相談ブース
- 主婦用の「マザーズサロン」
- キャリアアッププログラム

-問題点-

◆利用者のほとんどが四年生
⇒三年生以下など、早い段階で就職についての情報を得ていない。

◆知名度が低い
⇒ハローワークを【仕事を探すための場所】ととらえている人が多く資料を活用しきれしていない。

-まとめ-

政府のハローワーク支援政策は価値があるものである。
しかし、あまりそれが知られてないため、最大限に有効活用出来ていないので、広報活動をもっと行っていくべき。

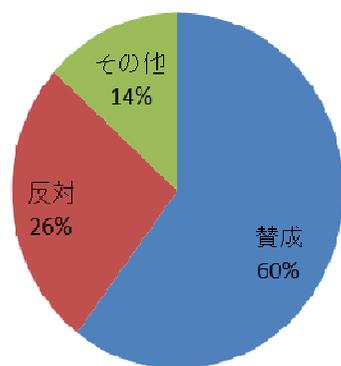


～政府～

ii. 就職活動を遅らせることについて

「学業に専念するため」就職活動を遅らせようとしている。

就職活動の遅延化



-民意-

賛成が多い。

-理由-

学業に専念できるため

-結論-

政府の狙いは民意に伝わっているし、支持も得られている。

-反対派の理由-

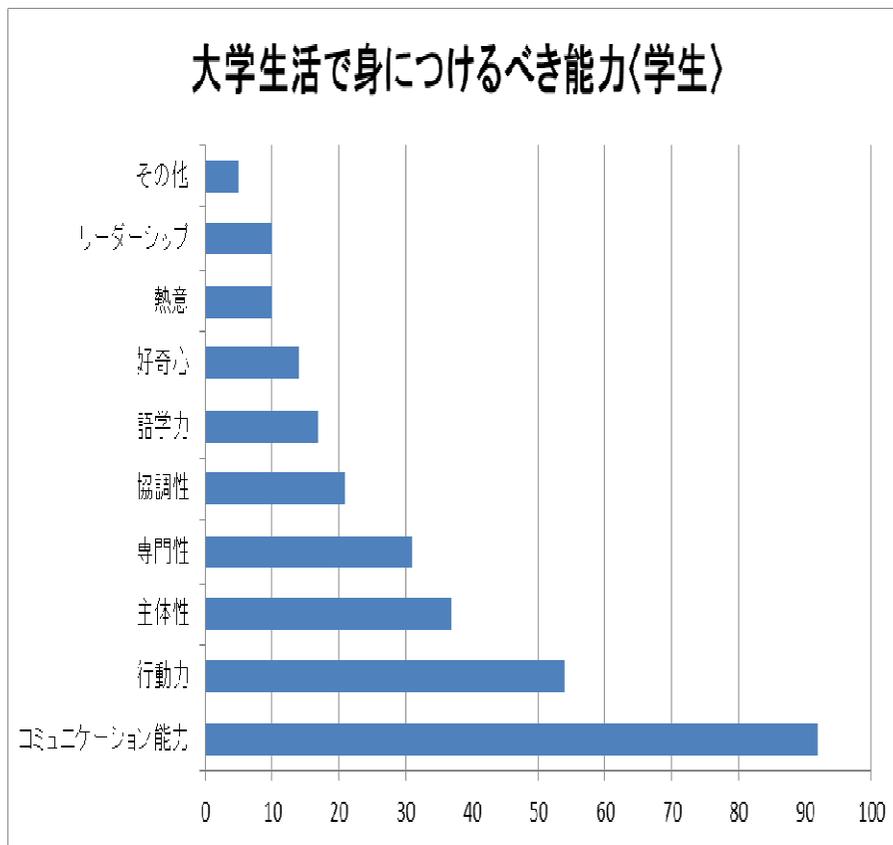
- ◆ 本当に徹底に就職活動を遅らせることができるのかという疑問
- ◆ 就職活動期間の短期化への恐れ

-解決策-

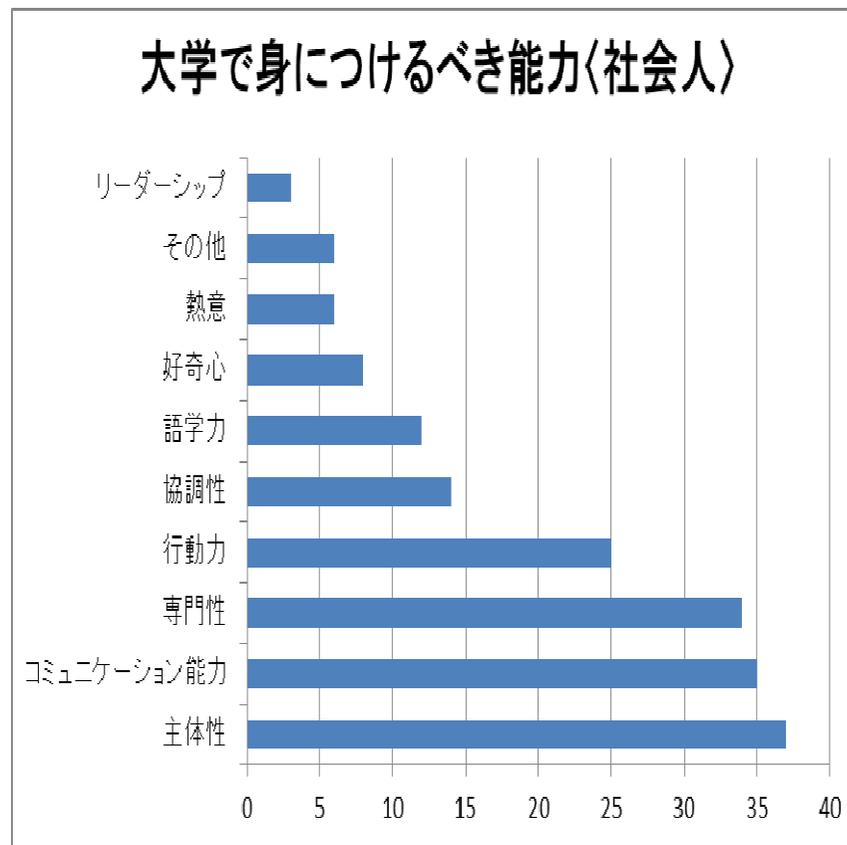
- ◆ 政府が経団連などと連携し就職活動に関する制度創設や法改正を行う
- ◆ 大学等と連携し、就活に関するセミナーや説明会などを増やし、就活について考える機会を増やす。

～政府～

iii. 大学教育について①



学生 1位 コミュニケーション能力
2位 行動力
3位 主体性



社会人 1位 主体性
2位 コミュニケーション能力
3位 専門性



～政府～

iii. 大学教育について②

－大学の役割・大学教育の在り方－

企業や社会が求めるような人材に学生が成長できるよう、コミュニケーション能力などのブラッシュアップを図る。

－アプローチ法－

①少人数制の授業

- ・議論、プレゼンテーション、グループワーク
- ・チューター制度、フェロー制度

②語学力の習得

- ・英会話などの特別講座を授業としてカリキュラム化する

③大学の就職活動サポート制度の有効活用

- ・個別相談、OB・OG訪問

－まとめ－

以上のようなアプローチをすることで、義務教育などで養われた基礎的な能力や知識が、大学教育を通して総合的にブラッシュアップされ、社会に求められるような人材を送り出すことが出来るのではないのだろうか。



～政府～

iv. 雇用政策について①

-評判-

悪いと思っている人が多い。

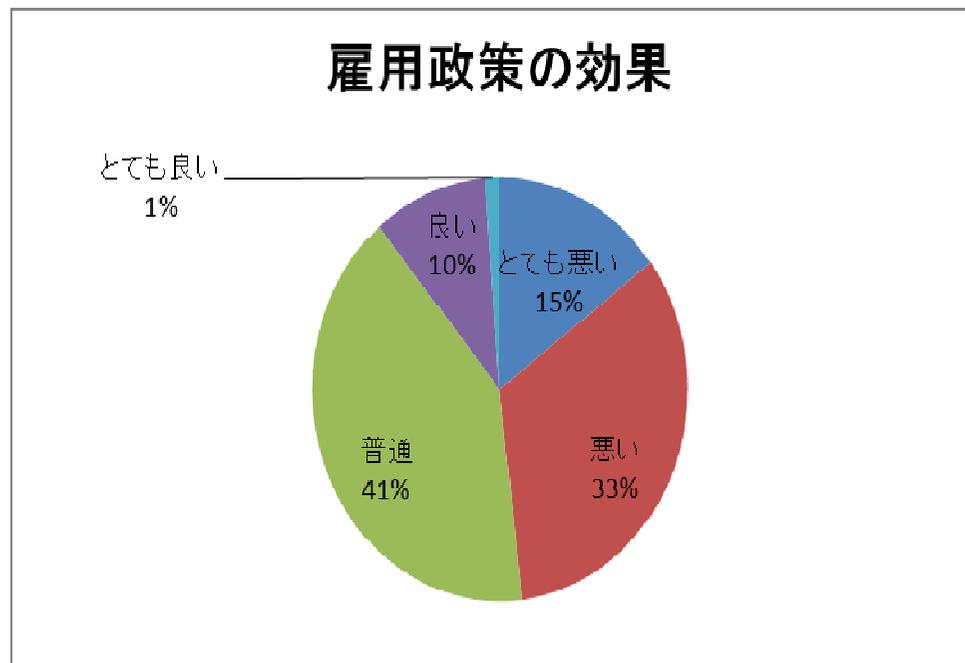
-意見-

①そもそも知らない

⇒これでは、実際失業したとき
補償を受けられない。

②甘やかし政策

⇒この政策の目的は 失業＝生活保護 としないこと。



～政府～

iv. 雇用政策について②

-効果-

- 現在、雇用供給は飽和状態。
⇒事務のような一般的職業への知識に大きな効果は望めない。



- 政府が市場を見つめ、需要に応じた職業訓練を施していく必要がある。

-まとめ-

評価は低く、課題はまだ残っている

⇒制度の効果というものを国民に周知させていくことが大切



～企業～

i. 学生の多社受験について①

一人で、100社も受ける人がいる。

	ウェブエントリー 企業数	企業説明会 セミナー参加数	受験した企業数	内定社数
2011年卒平均	97.0社	30.1社	21.8社	1.67社
10年卒平均	83.1社	27.5社	18.8社	1.74社
09年卒平均	63.8社	23.2社	16.0社	1.98社
08年卒平均	57.9社	25.0社	15.6社	—
07年卒平均	47.6社	23.6社	13.9社	—

(週刊 ダイヤモンド 2011年2月12日)



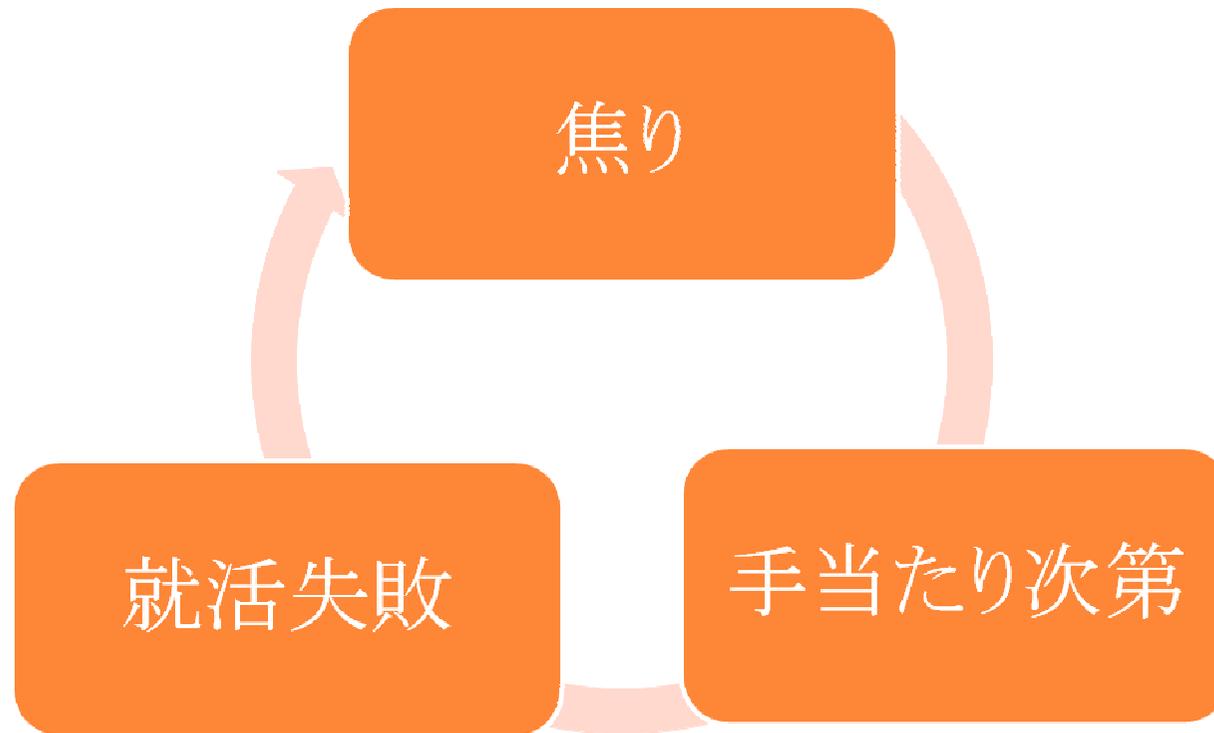
～企業～

i. 学生の多社受験について②

原因は？

・企業の情報が不明確

cf) ・「説明会に出てたほうが有利？」



～企業～

i. 学生の多社受験について③

- 何をすべきなのか、何を求めているのかの明確化が必要。

- 企業の採用基準

⇒ × 優秀か否か

○ 自社に適しているか



自社のコンセプトを明確にし、独自性を打ち出していく。



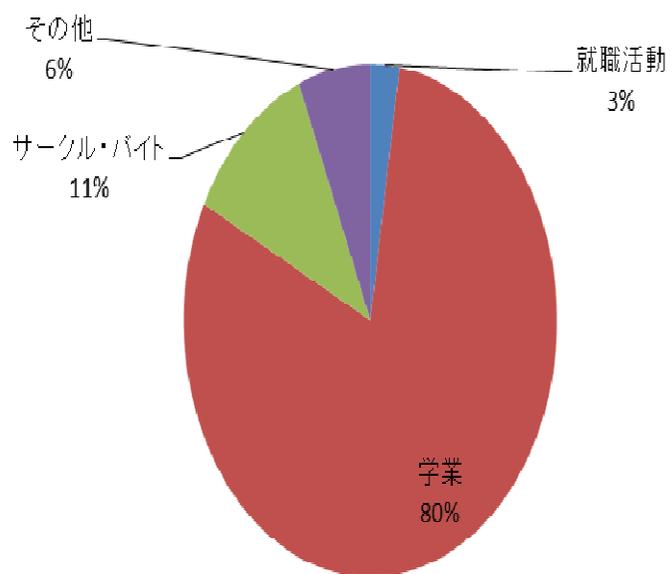
学生が、企業選びを行いやすい環境の形成



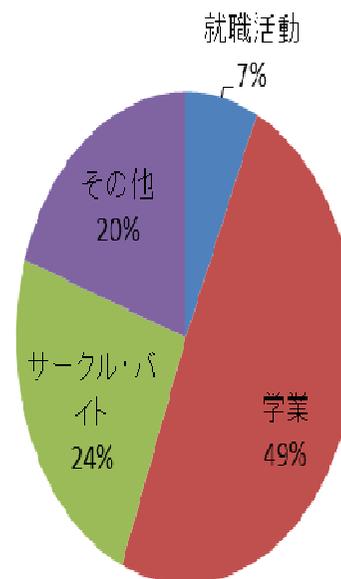
～学生～

i. 大学生生活の過ごし方について①

大学生生活で重視するもの〈社会人〉



大学生生活で重視すべきもの〈学生〉

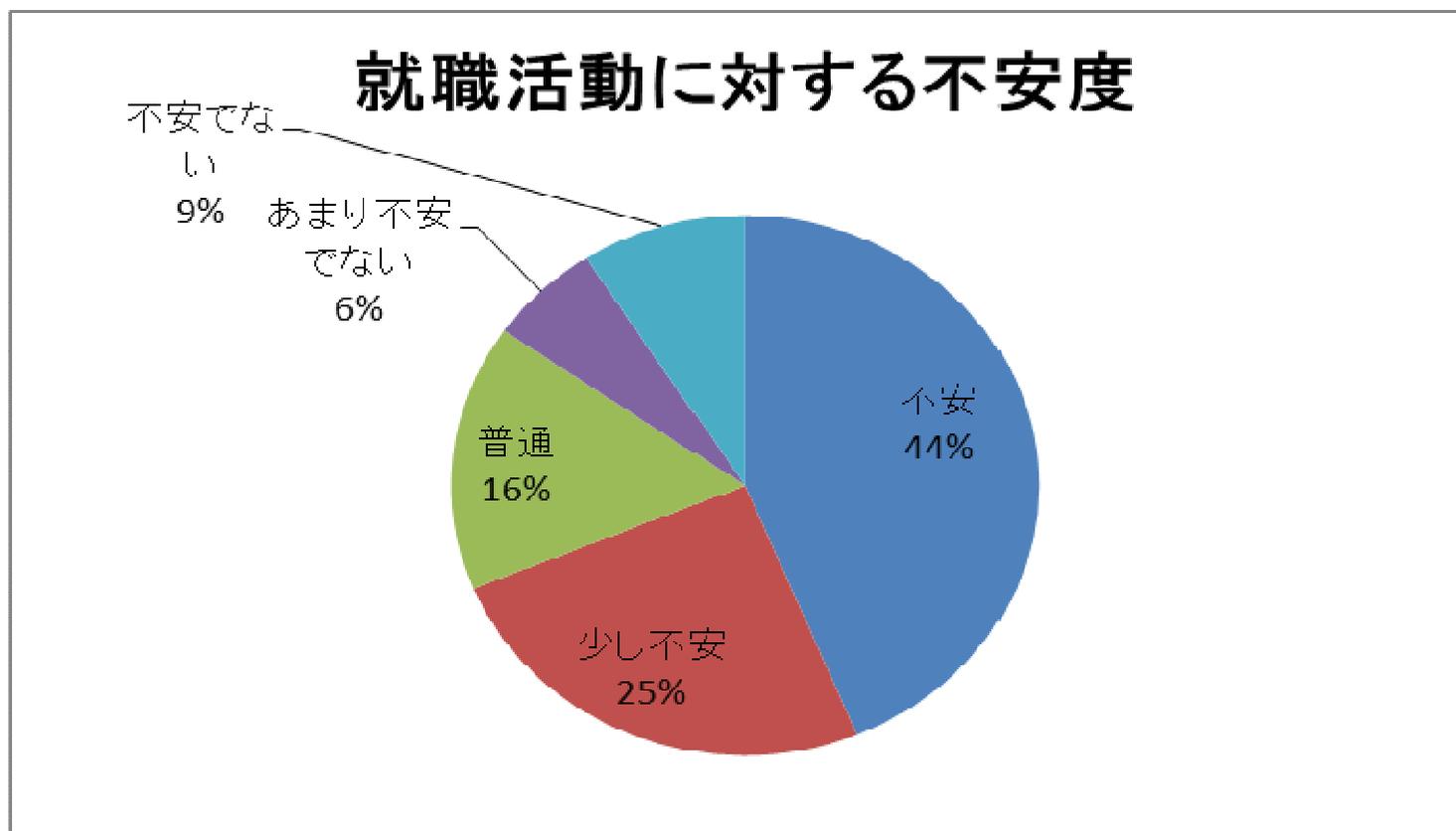


⇒「大学生生活は遊びたい」と考える学生は、
社会人に比べ、多い



～学生～

i. 大学生生活の過ごし方について②



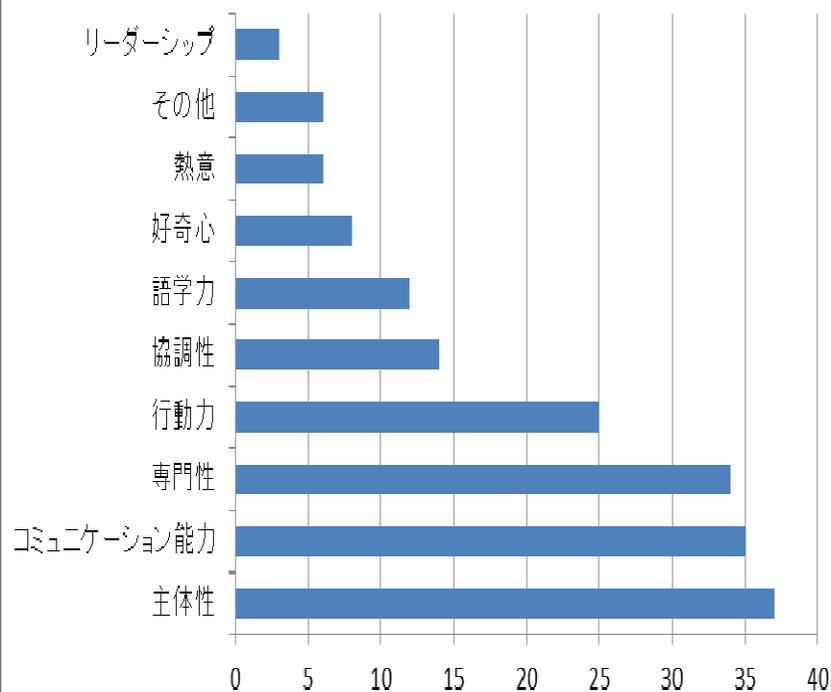
しかし、自分の就職活動に不安を感じる人は7割近い
⇒「甘え」なのではないか？



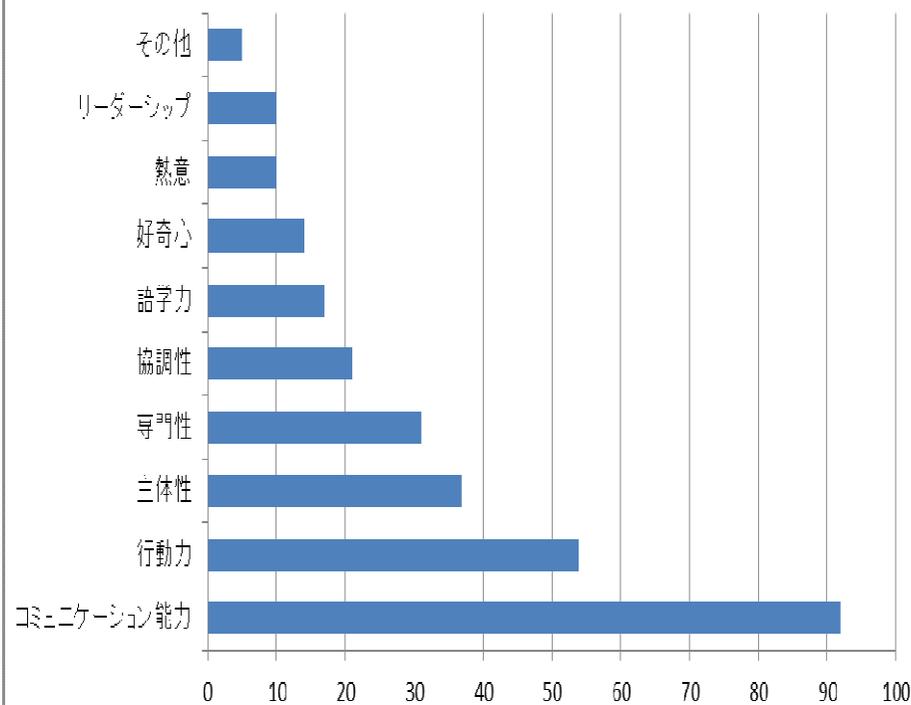
～学生～

i. 大学生生活の過ごし方について③

大学で身につけるべき能力<社会人>



大学生生活で身につけるべき能力<学生>



身につけるべき能力は学生も理解している。

⇒ならば、そのための努力をするべき！



IV.総括

政府

- ・政策についての広報活動の強化
- ・政策の徹底

企業

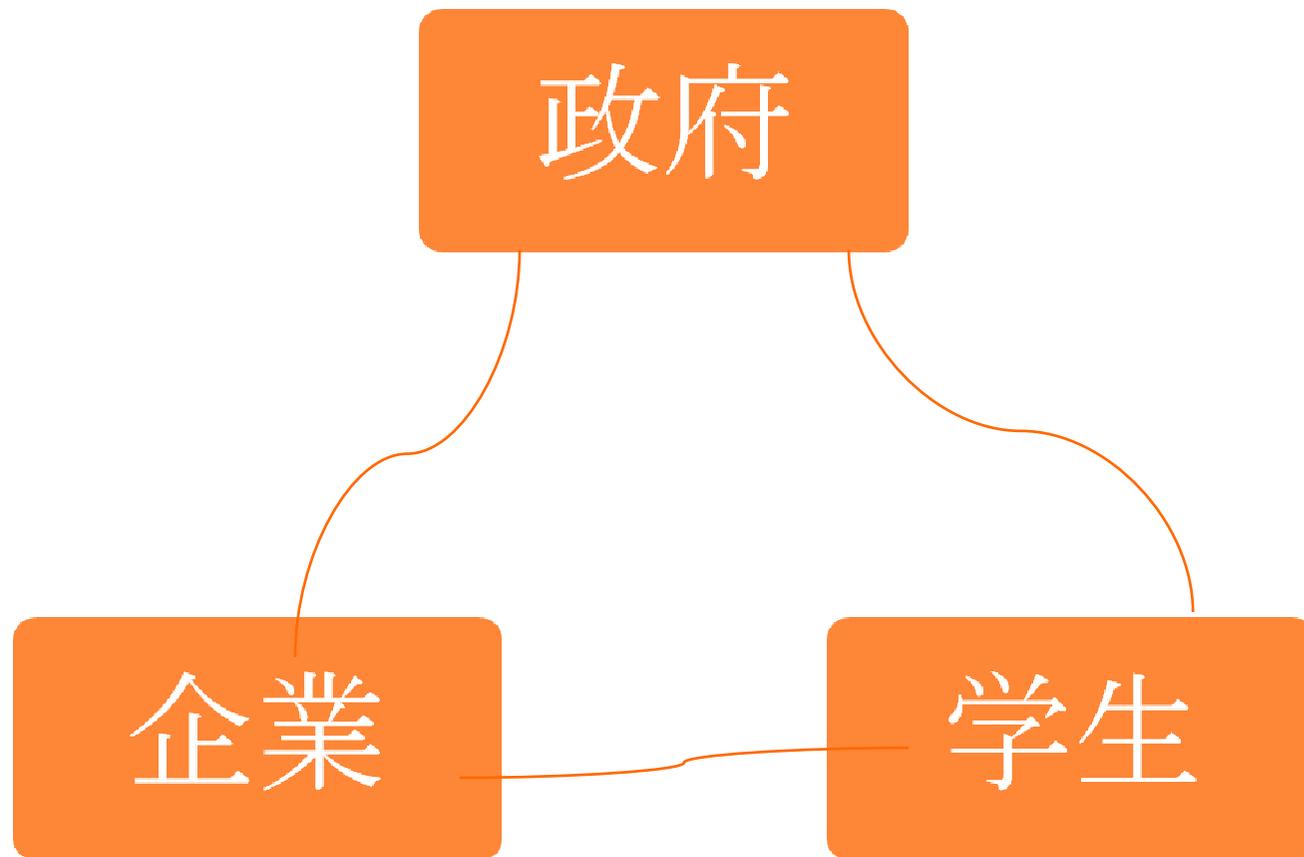
- ・情報開示

学生

- ・自助努力
- ・問題意識の維持

～最大の問題～

情報を共有できておらず、三者間の結びつきが非常に弱いものになっている。



政府は政策を学生・企業に正確に伝える。
企業は自らの情報を正確に学生に伝える。
学生は、主体性を持って自ら積極的に
就職活動を考え、行う。

これが理想の姿であり、
我々の考える「就職難」を乗り越えていく方法

